主要農作物品種審査会（令和７年２月３日開催）会議録

１　日時　令和７年２月３日（月）午後２時から午後４時まで

２　場所　宮城県行政庁舎１１階　第二会議室

３　出席者

（１）委員９名

本間香貴、佐々木利幸、高橋久則、大川亘、鳥羽大陽、高橋清範、石川宣子、大崎早苗、常陸孝一

（２）幹事５名

關口道、佐藤潤一、門間陽一、滝澤浩幸、小高勝範

４　傍聴人　なし

５　会議録

（午後２時開始）

〇事務局（増岡班長）

ただ今より、主要農作物品種審査会を開催します。本間会長より挨拶をお願いします。

〇本間会長

本日は、御多忙中にもかかわらず、主要農作物品種審査会に御出席いただき、厚くお礼申し上げます。

さて、令和６年産の稲作は、生育期間を通じて高温で経過し、平年と比較し出穂期、刈取適期が早まり、高温下での登熟となりました。作柄については、作況指数は１０７の「良」となり、水稲うるち玄米の１等米比率は令和６年１１月末現在で 89.6%と、前年をやや上回りました。

このような状況をふまえ、主食用米については、気候変動に対応しつつ、実需や消費者のニーズに合った特徴のある品種がますます求められるようになってきています。

また、大豆につきましては、令和４年３月に「すずみのり」が優良品種として採用されました。昨年度から種子生産が始まり、作付面積は令和６年産で 263ha となっており、令和７年産も作付の拡大が見込まれます。

大豆は、一部の品種で、需要量に対して供給の過剰や不足が生じております。生産者と実需者の両方に好まれる品種の採用に向けて、引き続き検討していく所存です。

今回の主要農作物品種審査会では、「水稲２品種、大豆１品種の優良品種廃止について」及び「次年度の優良品種決定調査に供する稲・大豆の系統」について御審議いただきます。

本日お集まりの皆様には、各審議案について十分に御検討いただき、忌憚のない御意見や御提案をいただきますようお願い申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。

それでは、本日はよろしくお願いいたします。

〇事務局（増岡班長）

ありがとうございました。本日御出席いただいております、委員の皆様を御紹介させていただきます。次第の裏面の名簿順に御紹介をいたします。

（出席委員９名を紹介）

〇事務局（増岡班長）
本日委員１０名中９名に御出席いただいております。主要農作物種子条例第２２条第２項の規定により、委員の半数以上が出席しておりますことから、会議が成立しますことを御報告いたします。これより審議に移りますが、これからの進行につきましては、会長を議長に進めて参りたいと思います。本間会長、よろしくお願いします。

〇本間会長
本審査会につきましては「情報公開条例」に基づきまして、公開で開催させていただきますので、御了承願います。次第の次に知事からの諮問文がございますので、御覧願います。
諮問事項は、「（１）水稲優良品種「ヒメノモチ」、「こもちまる」を廃止することについて」、「（２）令和７年度優良品種決定調査に供する品種（稲）について」、「（３）大豆優良品種「すずほのか」を廃止することについて」、「（４）令和７年度優良品種決定調査に供する品種（大豆）について」でございます。
本日は、次第のとおり、最初に水稲、次に大豆の順番で審議していきたいと思います。それでは、水稲について、報告事項として「令和６年度水稲優良品種決定調査成績」について、事務局から説明願います。

〇事務局（佐藤（直））
「令和６年度水稲優良品種決定調査成績」のうち、「優良品種として要望される品種」について説明。

〇滝澤幹事
「令和６年度水稲優良品種決定調査成績」のうち、供試品種及び系統について説明。

〇本間会長
それでは、報告事項について御質問・御意見がございましたら、お願いいたします。
（質疑応答）

〇高橋（久）副会長
要望される品種に、高温登熟耐性、耐冷性、耐倒伏性と記載があります。私が県職員をしていた時代は、昭和５５年から４年連続で冷害、その後も５年ごとに冷害がきた状態であるが、平成１５年以降は目立った冷害が来ていません。東北、北海道ではこれまで耐冷性を重視して試験を行っていましたが、現在では高温登熟耐性が重要視されています。高温登熟耐性と耐冷性は一つの品種に同時に付与するものか、それとも、高温登熟耐性を持つ品種を優先して選抜しているのですか。

○滝澤幹事
　要望される品種に記載のある高温登熟耐性、耐冷性、耐倒伏性は、標準装備として改良を行っています。冷害については、これまでの実績があるので、改めて耐冷性を強化する育種は行っていません。現状、あらゆる品種がひとめぼれ以上に耐冷性を持っています。耐倒伏性についても、極端に強いものはまだありませんが、標準以上の強さを持っています。いもち病についても、最近は抵抗性遺伝子を入れているので、弱いものはないです。いずれ、高温登熟耐性もこのように標準装備にしていきたいです。

○本間会長
　令和６年度の試験では、県内での高温の影響はどうでしたか。

○滝澤幹事
　令和６年度は令和５年度と比較して、高温の影響は小さかったです。降雨があって、５年度ほど厳しい状況ではありませんでした。そのような状況でも、昨年は高温登熟耐性の強さを確認できました。高温登熟耐性については、数年前は特性を持っていても気象条件が合わず、強さを確認できない年がありましたが、６年度はある程度は特性を確認できたと考えています。

○本間会長
　本調査の外観品質が４～５程度、予備調査では３くらいでしょうか。

○滝澤幹事
　ひとめぼれを基準に評価をしています。結果はひとめぼれよりも良い数値が出ています。

○本間会長
　昨年の気象条件で、どのくらいの外観品質であればよいでしょうか。

○滝澤幹事
　具体的な数値は申し上げにくいですが、高温登熟耐性に関しては検定を行っており、その中で基準品種より強い、弱いを評価しています。基準品種はひとめぼれが中、高温に強いと言われているつや姫でやや強で、それより強い高温登熟耐性を狙っていきます。

○石川委員
　本調査で打ち切りとなる東北２４３号については、カドミウム低吸収性を持っていますが、このような試験を行っているのは、消費者からの要望があるからでしょうか。

○滝澤幹事
　県内には土壌にカドミウムを含む地域があって、カドミウムを吸わない対策をしないと基準値を超えてしまいます。県産米の安全性や生産者の経営に影響する部分があるので、カドミウムを吸いにくい品種の開発を行っています。今回東北２４３号は打ち切りとしますが、すでに以前試験していた系統につ

いては、具体的な栽培計画はないものの、品種登録を行い、試験としては完了させる予定です。
　ヒ素については、カドミウムと異なりあらゆる場所で出るので、現在基準は決まっていませんが、基準が定められると、カドミウムとヒ素では、管理方法が相反するトレードオフの関係になるので、いずれ全県的に必要な時が来るのではないかと思われます。試験で先行している系統を品種としておけば、いざという場合でも現場に普及できると考えています。

〇本間会長
　それでは、ただ今より、審議に入ります。「水稲優良品種「ヒメノモチ」、「こもちまる」を廃止することについて」事務局から説明願います。

〇事務局（佐藤（直））
　「水稲優良品種「ヒメノモチ」、「こもちまる」を廃止することについて」説明。

〇本間会長
　審議事項について御質問・御意見がございましたら、お願いいたします。
　（質疑応答）

〇高橋（久）副会長
　みやこがねもちは晩生、ヒメノモチは比較的出穂が早いので、山間部では多く作付けされてきました。かつては、加美町の旧宮崎町で多く作付けされていました、現在はどうなっていますか。

〇事務局（佐藤（直））
　昨年度の調査では、JA 名取岩沼管内で作付けがあるほか、その他の地域でも作付けがありました。

〇本間会長
　それでは、「水稲優良品種「ヒメノモチ」、「こもちまる」を廃止することについて」は、原案どおり、適当であるとしてよろしいでしょうか。
　（賛同の声）
　それでは、「水稲優良品種「ヒメノモチ」、「こもちまる」を廃止することについて」は、適当であることといたします。
　続いて、「令和７年度優良品種決定調査に供する品種（稲）について」事務局から説明願います。

〇事務局（佐藤（直））
　「令和７年度優良品種決定調査に供する品種（稲）について」のうち、「優良品種として要望される品種」について説明。

〇滝澤幹事
　「令和７年度優良品種決定調査に供する品種（稲）について」のうち、供試品種及び系統について説

明。

〇本間会長
　それでは、審議事項について御質問・御意見がございましたら、お願いいたします。
　（質疑応答）

〇高橋（清）委員
　中食、外食向けで、高温に強い系統はありますか。

〇滝澤幹事
　中食、外食向けの供試系統では、高温登熟耐性は並程度です。他県の系統で、検定の課題もあり単純に比較できない部分もあります。

〇高橋（清）委員
　東北２３３号、東北２４６号、東北２４７号と比較して収量はどうですか。

〇滝澤幹事
　３系統の中でも収量に差はありますが、平均するとそれらよりも多いです。

〇高橋（清）委員
　東北２４７号については、中食、外食に向けても差し支えはないですか。

〇滝澤幹事
　用途として、出口の部分では違いはないが、狙いの入口部分が違ってきます。入口の部分では、明確に高温登熟耐性があるものを選んでいく、一方で、それより高温には弱いが、収量の面で優れるので選ぶものもあります。出口はいろいろあって良いと思います。

〇高橋（清）委員
　山形と岩手の系統は倒伏に強いようですが。

〇滝澤幹事
　収量と倒伏については、品種に合わせた栽培を行っていないので、試験の栽培方法で中と評価したものです。

〇高橋（清）委員
　山形と岩手で育成されたものなので、生育環境で違ってくる部分もあるのではないでしょうか。

〇滝澤幹事

１年目の予備調査では、本県で栽培試験をして評価し、収量性を評価できたので、引き続き試験を行います。

○本間会長
いずれ高温登熟耐性は求められてきますが、まずは良食味のものを優先してということでしょうか。

○滝澤幹事
はい。先ほどの耐冷性でも同様に述べましたが、いずれ高温登熟耐性もやや強レベルか、それ以上のレベルを持つものを標準にしていきます。

○佐々木副会長
東北２４７号について、ひとめぼれと比較して白未熟粒が少なく、高温登熟耐性に優れていることがわかります。予備調査をなくして、調査期間を１年短縮するとのことですが、市場には最短でどのぐらいで出るのでしょうか。高温登熟耐性の品種は、現場からの要望が高いので、少しでも早く市場に出していければと思っています。

○滝澤幹事
少しでも早くするため、１年試験を短くすれば、試験用種子の生産が少ない状況で始めるマイナス面があります。あと１年多ければ、３年目に現地試験や実証ほを設置する可能性がありますが、種子量が限られているので、できる範囲でやっていきたいと考えています。

○鳥羽委員
晩生品種について、現在古川農業試験場で育成している系統で有望なものはありますか。

○滝澤幹事
晩生については、日頃交配している割合としては多いです。特に高温登熟耐性が強いものの割合を高めて交配しています。ただし、７年度は谷間となって少なくなっていますが、８年度以降は世代が上がってきて、有望な晩生の系統が出てくる予定です。高温を回避するためにも、晩生は必要と考えており、高温登熟耐性を持った晩生が一番望ましいと考えています。

○本間会長
それでは、「令和７年度優良品種決定調査に供する品種（稲）について」は、原案どおり、適当であるとしてよろしいでしょうか。
（賛同の声）
それでは、「令和７年度優良品種決定調査に供する品種（稲）について」は、適当であることといたします。
続きまして、大豆に移ります。報告事項として「令和６年度大豆優良品種決定調査成績」について、事務局から説明願います。

○事務局（佐藤（直））
　「令和６年大豆優良品種決定調査成績」のうち、「優良品種として要望される品種」について説明。

○小高幹事
　「令和６年度大豆優良品種決定調査成績」のうち、供試品種及び系統について説明。

○本間会長
　それでは、報告事項について御質問・御意見がございましたら、お願いいたします。
　（質疑応答）

○石川委員
　大豆は味噌、豆腐か、そのまま食べるものもありますが、加工適性を判断する際、豆腐や味噌等、用途を指定して試験を行っているのでしょうか。

○小高幹事
　豆腐や味噌ごとに限定して評価しているのではなく、豆腐の加工業者や、味噌醤油組合に頼んで、その品種で作った時に、既存の品種とどのくらい差があるか、優れるか劣るか判断しています。

○本間会長
　東山２３９号について、本調査では晩播の収量が高いが、どうしてですか。

○小高幹事
　品種によっては、晩播適性のあるものもありますし、その年の気候による部分もあると考えています。

○本間会長
　夏の気温が変化してきているなかで、５月２３日の播種では早いような気がしますが。

○小高幹事
　東山２３９号については、早生の系統ですが、気候との兼ね合いもあり、標播が良いか、晩播が良いか、検討を行っていきたいです。

○高橋（久）副会長
　タンレイは奨励品種の採用から長い期間が経過し、実需の方から要望される品種として長く栽培されています。一方、タンレイは紫斑病に弱く、種子生産に多くの手間がかかっており、種子指標価格の見直しも行っている状況です。東山２３９号は、やや有望であるが、次年度供試しないとの評価となっています。調査については、調査終了としたら復活はあるのか、それとも、常に新しい系統を調査していくのでしょうか。

○小高幹事
　資料３の２ページ特性表を見ると、紫斑病の抵抗性が東山２３９号は強～極強となっています。タンレイについては、紫斑病に弱いため、種子生産者が冬場の今の時期に手選別を行っているが、非常に労力がかかっています。このような状況で、東山２３９号は紫斑病抵抗性が強～極強、その他収量も良い結果が出ているので、タンレイの置き換えを見据えながら、令和７年は試験に供試はしないが、加工適性の評価を行う、既存品種と変わりがないとなれば、タンレイと置き換えることを検討していきたいです。供試しないので、打ち切りというわけではなく、次年度以降、品種化できるか検討していきます。

○本間会長
　東山２３９号について、栽培については特性把握につき終了としますが、加工適性を次年度評価していくということでよろしくお願いします。

○本間会長
　それでは、ただ今より、審議に入ります。「大豆優良品種「すずほのか」を廃止することについて」事務局から説明願います。

○事務局（佐藤（直））
　「大豆優良品種「すずほのか」を廃止することについて」説明。

○本間会長
　それでは、審議事項について御質問・御意見がございましたら、お願いいたします。
　（質疑応答）

○高橋（久）副会長
　JA みやぎ仙南が納豆センターで行っていた、納豆生産を中止するということでしょうか。

○事務局（佐藤（直））
　すずほのかの生産中止に伴い、JA みやぎ仙南において、納豆生産を中止することになったと聞いています。

○石川委員
　すずほのかについては、みやぎ生協ブランドで納豆を販売してきましたが、台風被害もあり、生産者としても生産が厳しくなったと聞いています。ご苦労なさった部分も多いと思います。仕方が無い部分もありますが、また新しい品種ができれば、ぜひまた作っていただければと思っています。

○本間会長
　納豆用の極小粒品種については、優良品種がない状況になりますが、今後も要望される品種として、検討していただきたいです。

○大崎委員
　生産者の経営が厳しいと聞きましたが、小粒のため値段が安いということでしょうか。

○事務局（佐藤（直））
　極小粒については大・中粒よりも価格は高めに設定しているものの、収量が少なく、選別に手間がかかり、労力面で生産が厳しくなったと聞いています。

○本間会長
　それでは、「大豆優良品種「すずほのか」を廃止することについて」は、原案どおり、適当であるとしてよろしいでしょうか。
　（賛同の声）
　それでは、「大豆優良品種「すずほのか」を廃止することについて」は、適当であることといたします。
　続いて、審議事項「令和７年度優良品種決定調査に供する品種（大豆）について」事務局から説明願います。

○小高幹事
　「令和７年度優良品種決定調査に供する品種（大豆）について」説明。

○本間会長
　それでは、審議事項について御質問・御意見がございましたら、お願いいたします。
　（質疑応答）

○大川委員
　予備調査については、これから供試系統を決めるということですが、試験の中止や継続しない検討も多く出ています。新年度はどのくらいの系統数を試験する予定でしょうか。

○小高幹事
　予備調査の供試系統は、３月末に選定しますが、育成地からの生育状況や収量、品質を評価し、選定、前年と同様に２～４系統くらいになると見込んでいます。

○本間会長
　タチナガハを対照品種としているのは、タチナガハの作付けがまだあるからですか。

○小高幹事
　タチナガハの作付けが２割強あるので、対照品種として比較しながら、今後の新品種導入に向けて検討していきたいです。

〇本間会長
　それでは、「令和７年度優良品種決定調査に供する品種（大豆）について」は、原案どおり、適当であるとしてよろしいでしょうか。
　（賛同の声）
　それでは、「令和７年度優良品種決定調査に供する品種（大豆）について」は、適当であることといたします。
　以上で諮問事項の審議を終了いたします。
　次に答申案をまとめたいと思いますが、いかが取り計らいましょうか。
　（議長一任の声）
　議長一任という声がありますので、答申案を申し上げたいと思います。今回、知事から諮問のあった事項について適当と認める旨答申したいと思いますが、御異議はございませんでしょうか。
　（異議なしの声）
　それでは、ただいま申し上げたとおり、答申することに決定いたします。具体的な答申内容につきましては、私（会長）と事務局に一任いただいてよろしいでしょうか。
　（賛同の声）
　ありがとうございます。それでは答申文につきまして、私（会長）と事務局にて作成させていただきます。

　次に、「（５）その他」　として、皆様方から何かありますでしょうか。

〇高橋（清）委員
　先日テレビで放送されていましたが、県としてつや姫の作付けを推進するとありました。現場ではつや姫の種子が不足しています。審議の中であった東北２４７号については、早く出していただきたいと私も思っていますが、なにか情報はありますか。新品種になるまで時間はかかると思いますが。つや姫は山形県でブランド米としていて、うまく種子が供給できるのか、情報をいただきたいです。

〇關口幹事
　つや姫の件については、宮城県米づくり推進本部の次年度方針で、高温対策の一つとして、高温に強いつや姫の作付けを増やしたり、晩期栽培や直播栽培を増やすことで出穂を遅くして、高温を回避するという技術的な対策もあるので、そのような対策を様々組み合わせていくことで、方針を決定させていただいたところです。取材を受けましたが、つや姫の部分が切り取られて、我々の意図が伝わりにくかった部分がありました。県としては、ひとめぼれを主力品種としており、まずはひとめぼれをしっかり栽培していく、その中で県育成の高温登熟耐性品種がまだないので、つや姫を使いながら、いろいろな方法で対応していきます。
　種子の件については、２年前に注文をとり、１年かけて種子を生産し、今年生産者に配布するかたちになります。種子の注文はすでに終わっていて、配布できる数量はもう決定しており、急にすぐ増やすのが難しい状況でした。ただし、昨年注文に応じて生産した種子は、予定より多く収穫できた種子があったので、追加で全量買取し、希望する生産者に配布できるよう調整はしていますが、現場では作りた

いという要望に対して、希望通りの種子を全部配布することができませんでした。来年播種用のつや姫の種子は、種子場を増やして、なるべく要望に応えられるよう、現在採種組合と調整を行っています。

〇高橋（清）委員
　種子ほ場はどちらにありますか。

〇關口幹事
　県北の栗原、大崎地区などにあります。各地区で品種や面積を分けているので、つや姫種子を多めに作れるようお願いをしているところです。

〇高橋（清）委員
　山形県とのつや姫の需給バランスの方は大丈夫ですか。

〇關口幹事
　山形県とつや姫の栽培については、契約を取り交わしており、その基準に基づいて栽培しています。山形県産つや姫についても、認知度が高く、山形県も頑張っておられると認識しています。

〇大崎委員
　種子生産者が少なくなってきていると感じます。種子生産者に補助金を出す等、手当を厚くしないと、生産者が減ってきてしまうと思います。

〇關口幹事
　資材高騰等、生産コストの増加を受け、県では主要農作物として稲、大豆、麦類の種子生産者に対して、一年限りの予定ですが、営農継続支援というかたちで公社とともに、補助金を出させていただいています。生産者の高齢化や施設の老朽化もあるので、再編等、より効率的な種子生産をできるよう、アンケート調査を行うとともに、国からもハード整備の補助事業が出されているので、生産者に案内を行いつつ、しっかり種子生産が継続していけるよう、県として支援していきたいです。

〇本間会長
　その他ないようですので、以上をもちまして、本日の審査会の議事は終了となりますので、これより進行を事務局にお返ししたいと思います。御審議ありがとうございました。

〇事務局（増岡班長）
　皆様どうもありがとうございました。以上をもちまして、主要農作物品種審査会を終了させていただきます。長時間にわたり御審議いただきありがとうございました。

（午後４時終了）